

もみじ

—広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. クライミングスクール (4/5 三倉岳) 報告
2. 連載『幸せの国ブータン王国滞在記もろもろ』⑤
3. 定時総会 (5/9 対面・リッパ東方 2001) 報告
4. 岳連短信 (寄贈御礼、6 月行事予定)

1. クライミングスクール報告

第 1 回 4/5(日) 山域: 三倉岳 人数: 受講生 13 名

2020 年度第 1 回クライミングスクールは晴天の中、三倉岳源助崩れ正面下部のクライミングとビレイをトップロープで、その後テラスからラッペルを行いました。(指導部 塩田 徹)

【感想文】

『第 1 回クライミングスクールを終えて』

(受講生 平山 綾乃)

クライミングスクール第 1 回目。とりあえず、登山教室、岩稜歩き教室で学んだロープワークを復習し、ドキドキしながら当日を迎えました。初回はロープワーク中心の講習だろうと勝手に思い込み、三倉岳の岩場のとりつきへ移動すると、緑、青、ピンクのロープが三本高い場所から垂れ下がっています。いきなりあんな場所へ??と心の準備もないまま、講習がスタート。まず、スタッフの方々がお手本の登りを見せてくれます。なんとまあ、忍者のようにひょいひょいと登っていきます。3 グループに分かれ、2 人一組となり、ビレイヤーとクライマーを交代で行い、一人持ち時間 15 分で 3 つの課題に取り組みました。

足場がはっきり分かる箇所でも、高さに対する恐怖で早く登り終えようと必死で余裕がなく、とりあえず登ったという感じで終了。岩肌がごつごつしておらず、

どこに足をおいていいのかわからない箇所もあり、登る前に教わった、割れ目に手を突っ込むジャミングという手法を試すが、腕がかちっとハマった感覚までは分かりましたが、身体を持ち上げるまではできず、そこまでで終了。

ビレイヤー役も、ロープがスムーズに操作できず、慌てる場面も多々ありました。その他、ラッペルの練習、ロープのまとめ方、テーピング方法、内容盛りだくさんの 7 時間講習が終えるころには、身体も頭も疲労困憊でありました。全身、打ち身と擦り傷だらけになりましたが、いつか美しく登れるようになりたいなあと思いました。コロナの影響で自宅待機の日々、家で練習できることに取り組み、次回の講習に臨みたいと思います。

『感想文』

(受講生 宮本 政明)

4 月 5 日 一回目のクライミング教室を、三倉岳 源助崩れで受講した。8 時 30 分 駐車場で共同装備を受取り出発。ゲレンデに到着すると、先発して下さったスタッフにより三本のコースが設営されていた。装備とロープワークを確認した後、クライマーとビレイヤーに分かれてトライ。ペアを変えながら各コースに挑戦した。私はどのコースもクラックへたどり着くと、そこから先は歯が立たなかった。トップロープの安心感もあり、下に居るときはさほど緊張もしていなかったが、クラックでもたついている時には下を見て全身に力が入った。教わったジャミングにも挑戦してみたが、手も足もホールド感が上手くつかめなかったし、手の痛さもきつかった。テーピングを教わったので、次回は痛さ対策をして挑戦したい。ビレイでは、初め

てペアを組んだ相手に不安を与えないように、立ち位置、ロープさばき、テンションのかけ方など、スタッフにアドバイスを頂きながら操作を行った。自分が登るときはテンションを掛けて欲しいと思っていたので、もしかすると張りすぎで動きにくかったかもしれない。

講習の後半に、下降器を使った懸垂下降、ロープの束ね方などを教わった。順番を待っている間も、常にアドバイスを頂ける恵まれた講習会だった。私は山の経験が浅いので、岳連の教室に助けられています。今期はクライミング教室で、色々な経験が出来ればと思います。次回も楽しみにしています。



マロンウォールの前で開講式



スタッフによる模範とジャミング講習



受講生がトライ



テーピング講習



ラッペル（懸垂下降）講習と練習



ロープ収納講習

（以上写真は西部）

2. 連載『幸せの国ブータン王国滞在記もろもろ』

(副会長 亀井 且博)

—その 5— 聡明な国、ブータンと GNH**ブータンの外交方針**

ブータンという国家の諸外国との付き合い方やその基本的な考え方、さらに国家運営の基本的な考え方、方針を知ると、中国とインドという超巨大人口国で強大国に囲まれて、吹けば飛ぶようなアジアの小国の、懸命にアイデンティティーを保ってきた、そして今に続くブータンという国の姿と、そのしたたかさには感服するものがある。小国であるが故の知恵とこれまで征服され植民地化されることがない歴史が、この国のアイデンティティーを強めているのではないだろうか。

ブータンは宗教的にも、民族的にも伝統的にはインドよりもチベットを中心とした結びつきが強かった。しかし、1959 年の中国共産党政府のチベット征服によるダライ・ラマ 14 世のインドへの亡命をきっかけに、インド重視の政策へ急変更し、直ちに中国との国交・交易を断絶した。小田原評定ではないが、結論を先延ばしにしてずるずると無駄な時間を過ごし、取り返しがつかなくなってしまうのとは大違いで、即座の決断である。

そんな経緯もあって、現在、ブータン人とインド人はそれぞれビザ等必要なく、身分証明書の提示のみで

お互いの国を行き来できるほど緊密である。また、ブータン国民がインド国内で就学、就労する際に特に法的規制は無いそうである。余談であるが、私たちがプンツォリンで国境を越えて陸路でインドに旅行に行く際、出入国管理事務所でパスポートを提示してブータン出国の手続きをしようとしたら、「ワークパミット（在留許可証明書の性質のもので、ブータン人の身分証明書に相当する。）を持っているのだから、パスポートの提示はいらないし出入国手続きも必要ない。勝手に行って帰って来たら良い。」と言われ、「そんな訳にはいかないから出国手続きを頼む。」と頼み込んだら、怪訝そうな顔をして手続きしてくれた。

**特別な検査も無く自由に往来できるブータンとインドの国境の門**

ブータンには陸軍のみであるが、もちろん軍隊はある。しかし国境の警備は基本的にはインド軍に依存している。2017 年春に中国がブータンとの国境の緩衝地帯に勝手に道路を延長し始めるという、いつもの中国の常套手段の暴挙に出たことがあるが、その際にはブータン軍はもちろんのこと、インド軍部隊も駆けつけ、一触即発の睨み合いの緊張状態がしばらく続いた。最終的には習近平が、北京で秋に開催される国際会議にインドのモディ首相の出席が欲しく、機嫌取りのために中国側が撤退し、一旦は収まっているが、いつ何時同じことを仕掛けてくるか分からない。それが、かの国の常套手段で近隣の国々は常に警戒している。もちろん日本も十二分に警戒する必要がある。

基本的にはブータンは非同盟中立政策が外交の基

本方針で、南アジア地域協力連合（SAARC インド、バングラデシュ、ネパール、スリランカ、パキスタン、モルディブ、アフガニスタン、ブータンの 8 か国で構成）に加盟し、南アジア諸国との関係強化を図っている。世界 52 カ国及び欧州連合との間に外交関係があるが、アメリカやイギリス、フランス、中国、ロシアといった国連安保理常任理事国とは外交関係は持っていない。この理由の一つはヒマラヤ 3 王国と言われていたチベット、シッキム、ブータンの内、チベットが中国に無理やり併合され（1959 年）、またブータン王家と親戚関係にあったシッキム王国は無理やりの国民投票で、これまた無理やりにインドに併合された

(1975 年) のを目の当たりにして、これらを教訓にした非同盟中立の外交政策を展開しているのである。

「援助を受け入れるかどうかは私たちが決める。」と同様に、ここでもブータンという国の聡明さと、したたかさと、アイデンティティーの強さを伺い知ることが出来る。



かつてのシッキム王国（現在のインド、シッキム州）の位置

ちなみに、日本との国交はあり、2016 年がブータン・日本国交樹立 30 周年記念の年であった。ブータン王室を初めとしてブータン人は非常に親日である。2011 年 3 月の東北大震災・津波被害の際には、義援金を集め、国王自らが王妃を伴い新婚旅行を兼ねてとは言いながらも、いち早く日本にお見舞いに来られたのは記憶に新しいことである。当時はハンサムな国王と美人の王妃が話題となったものである。昨年 2017 年 6 月には秋篠宮眞子さまがブータンを訪問されたり、秋 10 月には国王の妹のソナム王女が日本を訪問されたりと、ブータン王室と日本の皇室もすこぶる良い関係にある。



5 代国王と王妃



皇后とお会いになるソナム王女



国王の妹、ソナム王女とのツーショット

ブータンの国家運営理念と GNH

ブータンの国家運営は世界的に見ても非常にユニークなものである。

国の基本方針は、第 4 代国王が 1979 年キューバのハバナで開催された第 6 回非同盟諸国会議出席後、帰路の記者会見の席上で初めて語られたと言われている、GNH（国民総幸福量）を高めることが国の発展と開発における最終的な目標である。ちなみに GNH という言葉もこの時に発言されたのが世界で最初である。

第 4 代国王の言葉である「**Gross National Happiness is more important than Gross National Product.**」(GNH (国民総幸福) が GNP (国民総生産) よりも重要である) は世界に驚きをもたらしたと言われている。それはそうだろう。世界の国々は、もれなく GDP をそして GNP を高める事が発展であり、それが豊かになる事で幸福になる事だと信じている時に、いきなり GNH という聞いたことも無い概念が重要だと言われたのだ。そりゃあ何だ? である。

GNH という概念は最初から完成されていたものではなく、時代とともに進化していると言われている。近年国際的な動きの中で幸福度ナンバーワンの国はどここの国という発表がなされるが、種々の指標を設定し、それを数値化してそのトータルが一番多い国が幸福度ナンバーワンと言っている。これは何事に関しても数値化して比較し、順序付けをしたがる先進国と言われる国の考えであって、それが GNH を正確に現わしているとは言えない。幸福とは精神的な感覚であって、決して数値化できるものではないからだ。ブータンも GNH を成し遂げたとは一言も言っていない。というより、GNH の最大化を目標に試行錯誤しながら取り組んでいるのが現状である。

GNH の最大化を目標としているブータンの指導者たちから、含蓄のあるそして“う〜ん”と唸らせるような、考えさせられる多くの言葉が発せられている。列挙すると、

・「私たちは私たちに基本的なことを問う。どうやって物質主義と精神主義のバランスを維持し続けるか?」

・「真の持続可能な発展や貧困を定義するものは、人

間の満足や価値観にあるのではないか。」

・「幸せとは、現金収入は少なくとも、人々がお互い尊厳をもって、平和で穏やかに暮らすことができる社会に所属・参加することと考える。」

・「先進国に対しては、経済成長だけがグローバルスタンダードではないと訴え、途上国には開発や援助による国づくりが必ずしも万能ではないのではないかと訴える。人びとが貧しくとも心豊かであればそれなりの幸福感のある社会が実現できる。」

う〜ん、なかなか考えさせられる言葉である。

これらの発言を見ると先進国と言われる国が追い求めてきた、そして今世界のほとんどの国が追い求めている経済発展至上主義を否定しているのでは無いかとも考えられるが、しかしながらそうではない。ブータンの指導者もよく分かっている。そのことは以下の発言で良く分かる。

・「経済発展なくしては、国家主権も思想の自由も保障されない。しかし、環境保全や文化的独自性維持との調和のとれた経済発展であるべきだ。」

ブータンの国家としての基本的な考え方はまさにこれである。

そのためブータンの開発理念は「自然を破壊してまで産業化を急ぐ政策は採らない。」で、先進国と言われる国々がこれまで行ってきた開発・発展政策に疑問を投げかけている。

今、私たちが考えるに、物質的な豊かさや利便性を追求して経済発展を遂げた先進国と言われる国は、その中で精神的な豊かさや自然の大切さには目もくれなかった。また、開発途上国と言われている国々は今まさに、それと全く同じ道を辿ろうとしている。そして、果たしてそれが真に人間にとって本当に幸福なのかを今、先進国といわれる国では問い始めている。

すでにブータンでは随分以前にこのことに気づき、人間と自然にとって本当に優しい発展とは何かを考え、人間にとっての真の幸福を成し遂げるべく新しい概念で取り組んでいるのである。そんなことから「**ブータンは周回遅れのトップランナーである。**」とも言われている。

なんともブータン人の聡明さには驚かされる。

次回—その 6—は幸せの国といわれるゆえん

3. 定時総会報告

5月9日(土) ホテルチューリッヒ東方 2001 において当連盟の今年度定時総会が無事終了しました。

4/22 の理事会で、広島県にも緊急事態宣言が続く間は連盟主催のイベントは会議も含めてすべて中止または延期することを決定していましたが、今年度の事業方針・予算案の承認をいただくため、この総会だけ

はこの時期にどうしても行う必要があり、唯一例外としていました。会場は当然ながら感染防止対策を講じ、会議時間も 30 分少々と大幅に短縮しました。

出席者は各所属団体代表 9 名・個人会員 2 名・団体代表以外の理事 10 名・監事 1 名の計 22 名で、委任状も含めて議決権は 265 分の 243 で、総会は十分に成立しました。

時間短縮のため、昨年度事業報告は資料でもって代え、**昨年度決算報告・今年度事業計画・予算案**にいくらか時間を割きました。

なかでも、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、すでに決定された比婆山国際スカイラン大会だけでなく、多くの連盟主催行事の中止が見込まれて収入が大幅に減少し、種々の財務改善策を講じたとしても 100 万円を超える赤字が予想されたことから、**賛助会員の募集**が提案され、承認されました。

賛助会員会費は個人の場合は 1 口 5,000 円で、連盟会員の多くの皆様のご協力をお願いしたいと思っています。なお、ご協力いただいた方には、毎月発行の連盟会報誌『もみじ』と連盟の行事案内をメールでお届けするとともに、さしつかえなければ『もみじ』でお名前・金額を公表させていただく予定です。

賛助会員募集のお願いの文書はホームページにも掲載しておりますが、振込先・募集期間等は下記のようにになりますので、よろしくお願いします。

会員期間：会費振込日～令和 3 年 3 月 31 日
会費：一口 5,000 円
募集期間：令和 2 年 5 月末まで（原則）
振込み先：広島銀行横川支店 口座番号 3251234
口座名義人（一社）広島県山岳・スポーツクライミング連盟

また、総会で承認された**今年度事業計画**の事業方針ならびに重点項目は次の通りです。

1. 事業方針

我々の上部団体である、公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会 (JMSCA) 2020 年度事業方針（下記参照）に協力し、先鋭的な登山と健康志向の登山、スポーツクライミングのトップ選手の育成と底辺の拡大という、登山とスポーツクライミングにおけるそれぞれの両極を融合させながら、会員ならびに一般県

民が山岳とスポーツクライミングの豊かな文化を享受できるよう努力する。

(JMSCA 令和 2 (2020) 年度事業方針については JMSCA ホームページの「情報公開」のページをご覧ください)

2. 重点項目

(1) 創立 80 周年事業

当連盟は、2021 年 1 月に創立 80 周年を迎える。これを祝う事業（祝賀会・記念登山・記念誌の発行等）の諸準備を行う。

(2) 県民ハイキングの実施

「県民ハイキング」活動をととして、加盟団体の活性化及び、一般登山愛好家に広く「山の日」を啓発し、安全登山を指導・普及する。

(3) スポーツクライミングの強化、PR

国体競技を運営する山岳競技団体として、スポーツクライミングの強化と PR に努める。

(4) 安定した財政基盤を目指す

連続赤字となった反省を踏まえ、より一層の経費節減と、自主財源の確保（賛助会員ほか）に努める。

(5) その他

・新型コロナ対応

一般社団法人としての社会的責任に鑑み、会員の健康と安全を最優先した良識ある対応をする。

・山岳共済の加入促進

JMSCA 事業方針でも強調されている「減遭難」対策に引き続き取り組むとともに、広く山岳共済への加入促進に努める。

（個別の事業は、別紙：2020(令和 2)年度 事業計画（案）のとおりで、ホームページにも掲載）

「(5) その他」の最初にもありますように、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大で大変な状況ではありますが、5/14 に広島県での緊急事態宣言が解除され、明るい光も見えつつあります。

県民ハイキングなどの今後の連盟主催諸行事をどうするかについては、運営会議を始め、各種会議で決定してまいります。総会後の三役協議・その後のメールでのやり取りを通じて、**6 月と 7 月の県民ハイキングは中止**することを決定しました。



会場のホテルチューリッヒ東方 2001、3F アイネクライネ

令和2年度

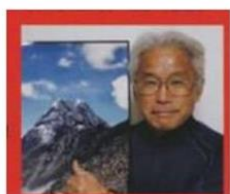
一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟 定時総会

- 1 日 時 令和2年5月9日(土) 15:00～16:00
 2 場 所 ホテルチューリッヒ東方2001
 〒732-0052 広島市東区光町2丁目7-31 電話 082-262-5111
 3 議 事 1号議案 : 令和元年度 事業報告
 2号議案 : 令和元年度 決算報告・監査報告
 3号議案 : 令和2年度 事業計画
 4号議案 : 令和2年度 予算案
 その他

総会終了後の懇親会は新型コロナウイルスの感染拡大防止のために中止します。



茨城国体リード成年女子決勝



総会資料表紙

4. 岳連短信

1. 寄贈御礼

広島やまびこ会『やまびこ』No. 768 (5月号)

三原山の会『筆影』No. 482 (5月号)

福山山岳会『会報』R2. 5月号

広島山岳会『山嶺』第857号 (R2. 4月)

2. 6月行事予定

6/2 県民ハイキング実行委員会 (19時～岳連事務所)

6/10 第3回運営会議 (18時40分～岳連事務所)

6/24 第8回スカイラン実行委員会 (18時30分～同上)

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。